

製品名: C/EBP ϵ (リン酸化 Thr74) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04342**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、 -20°C で保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	34kDa

抗原情報

遺伝子名	CEBPE
別名	CEBPE; CCAAT/enhancer-binding protein epsilon; C/EBP epsilon
遺伝子 ID	1053.0
SwissProt ID	Q15744
免疫原	抗血清は、Thr74 のリン酸化部位周辺のヒト C/EBP- ϵ 由来の合成ペプチドに対して産生された。 アミノ酸範囲: 40-89

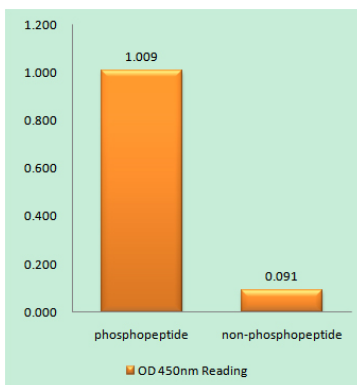
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は bZIP 転写因子であり、特定の DNA 調節領域にホモ二量体として結合することができます

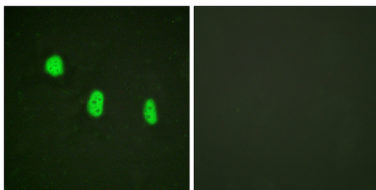
ます。また、関連タンパク質である CEBP-delta とヘテロ二量体を形成することもできます。コードされるタンパク質は、分化誘導された顆粒球前駆細胞の最終分化および機能的成熟に必須であると考えられます。この遺伝子の変異は、まれな先天性疾患である特異的顆粒欠損症と関連付けられています。この遺伝子には複数のバリエーションが記載されていますが、全長が決定されているのは 1 つだけです。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],機能: C/EBP は、多くのプロモーターに共通する CCAAT 相同性と、多くのエンハンサーに共通するエンハンサーコア相同性の 2 つの異なるモチーフを認識する DNA 結合タンパク質です。、オンライン情報: CEBPE 変異データベース,PTM: リン酸化されています。、類似性: bZIP ファミリーに属します。 C/EBP サブファミリー。、類似性:1 つの bZIP ドメインを含む。、サブユニット:DNA に二量体として結合し、C/EBP デルタと安定したヘテロ二量体を形成できる。、組織特異性:前骨髄球および後期骨髄芽球様細胞株で最も強い発現がみられる。、

研究分野

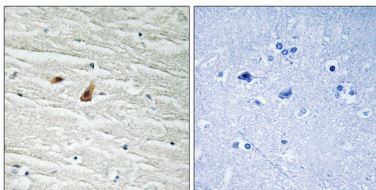
画像データ



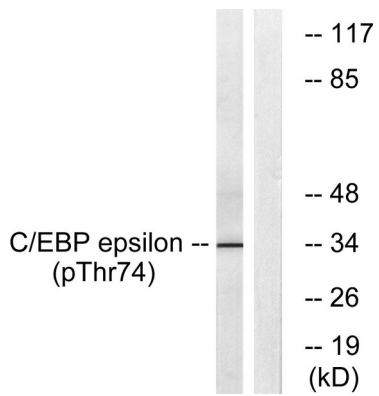
C/EBP-イプシロン (リン酸化 Thr74) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



C/EBP-epsilon (リン酸化 Thr74) 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした画像です。



C/EBP-ε (リン酸化 Thr74) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



UV 15 処理した HUVEC 細胞ライゼートの C/EBP-epsilon (リン酸化 Thr74) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。